



タクイラ市を訪問した親善団は、ホームステイ先の家族とコンサートに行ったり買物に出かけたりと、アメリカの日常生活がどのようなかを体験することができました。また、タクイラ市主催の晩餐会では、三味線・篠笛・よしのこの生演奏に合わせて全員が阿波踊りを披露し、大いに盛り上がりました。

わずか三日間という短い期間にも関わらず、人々の間には深い絆が生まれました。人種や国籍を超えて「心と心で触れ合うこと」の大切さを学ぶことのできる交流事業は、参加者にとって人生の大きな糧となることでしょう。

相互交流で培われた姉妹都市の絆。次はタクイラ市、ダルズ市からの親善団を三好市がお迎えすることになります。「おもてなし」の心を大切に、日本の素晴らしさを伝えたいものです。



通じ合おうとする気持ちがあれば、なんとかなる

数少ないホストファミリーとの出来事で、一番心に残っているのが、高校へ連れて行ってもらったことです。そこは紫のブルドッグが校章になっているので、どの人も私服の中に紫が入っています。そんな中で目立ったのが、かみむりやティアラをつけている人です。「十二年生になると、生徒の投票で選ばれた男女十人がつけることができます」と教えてくれました。四日間はあつという間に過ぎ、話す機会は少なかつたけれど、大きな愛を持って私たちに接してくださいました。私にとつてアメリカは遠い国でまったく接点がない国でしたが、通じ合おうとする気持ちがあるだけで、なんとかなるということが分かりました。
(中学生団員 明松春奈)

すぐうれしくて泣きそうになりました

初めてのホームステイ、初めての飛行機、初めての海外、初めてだらけですごくつまじょうことが多かつたです。三日目はフリータイムだったので、市内へつれていってくれました。みんなでのショッピングは、とても楽しかつた

行ってみたいとわからないことが、たくさんある

アメリカに行つて印象に残っているのは、ハロウィンパンプキンを作つたことです。かぼちゃがたくさん売っている場所に行つて自分のかぼちゃを選び、家でかぼちゃの中身をくり抜いて...という、すごく本格的なものです。家にも、ハロウィンの雑貨がたくさん置いていたので、新鮮で楽しかつたです。これまで外国はこわそうなどころだと思つていましたが、行ってみたいとわからないことが、たくさんあると気づきました。そして、普段の生活の中でも、何事もこわがらずに積極的になっていくことが良いと考えました。ホストファミリーへの感謝の気持ちを忘れずに、アメリカで学んだことをこれからの生活に活かしていきたいと思つています。
(中学生団員 馬宮綾音)

思いやりをもって接すると手を笑顔にできる

シヨールオルター中学校には肌の色が白い人もいれば、黒い人もいたし、髪の色も黒色や茶色・金色などいろいろありました。だれもその子の人権を侵害すること

です。車の大きさや信号機が、日本とぜんぜんちがつていたのでおどろきました。ホームステイ最後の夜は、みんな映画を見ながら寝ました。家を出るときにパパとママが「一人は家族だから、またいつでも来てね。待つとるよ」と、言つてくれました。すぐうれしくて泣きそうになりました。本当にすぐくやさしくてあたたかな家族でした。
(中学生団員 梅本彩)

アメリカに行つて聴く力がついたらと思います

タクイラに行つて習慣の違いにびっくりしました。家に入る時、靴を脱がなくてよかつたり、ご飯のとき絶対にナイフとフォークが出てきたり、驚くことばかりでした。晩餐会で私たちは阿波踊りを踊りました。ホストの方たちと一緒に踊ることができて楽しかつたです。アメリカに行つてなかなか積極的に話すことはできなかつたけど、聴く力がついたらかなと思つています。今回アメリカに行つてもっと英語が話せるようになりたいと思つました。アメリカが大好きになりました！お世話になつた皆さん、ありがとうございました。
(中学生団員 徳善翔子)

なく接していました。人それぞれ個性を尊重し平等に接するということは私たちが日本人が見習わなければいけないことだと思つていました。そして、お土産を買うときに店員が私に何か話していたけど私は英語がわからず困つていて、紙に書いてわかるまで説明してくれてとてもうれしかつたことがありました。思いやりをもって人と接することは相手を笑顔にできるんだなあと思つきました。
(中学生団員 近藤穂波)

困惑も多々ありましたが、よい思い出になりました

ホームステイ先で一番驚き、疑問に思つたことは、リビングに天井からの全体照明がなかつたことです。ダイニングやキッチンには照明があつたので、始めは備え付けられていないのだということにきづきませんでした。日本では大体どの部屋も照明がついているものなので、カルチャーショックでした。このように、様々な面において日本文化と外国文化では違いがあるのだ、ということが分かりました。思つたより言葉が上手く伝わらず、困惑した場

面も多々ありましたが、それらも含め、とてもよい思い出になりました。
(各種交流団員 原葉奈美)

友好関係を深め続けたいと思つました

私にとつてタクイラ市は報道による活字や写真のみの世界でありましたので、今回の初めての訪問は団長という責務に加えて、誠に不安と期待でいっぱいでありました。タクイラ市は四十か国の民族と六十種に余る言語が話されており、アメリカでも多民族が集つている事で有名と言われているので、訪問したシヨールオルター中学校でもいろいろな国の生徒たちが仲良く元気よく行きかつておりました。交流晩さん会では、三十年来、タクイラ市と井川町の交流の絆が培われた親交の深さが感じられ、今は三好市としてよりよく友好関係を深め継続していきたいと思つきました。学生たちには、ホストファミリーの皆様方にいっぱいのお心遣いを頂きました事を忘れないようにし、タクイラ市訪問が人生で意義のあるものになつて欲しいものであります。
(団長 真野保子)

